

Vision
for Toyosaka

豊栄地域ビジョン

～共同・共感・繋いでいく輪～



豊栄まちづくり委員会

令和4年2月発行

2021

豊栄まちづくり委員会

豊かな自然・伝統の中で、
生き生きと暮らしている
豊栄の人たちがいて、
夢がかなえられるまち、
かなえてくれる人がいるまち

● 目次 INDEX

2021

豊栄地域ビジョン

1 地域概要

- (1) 地勢・歴史
- (2) 産業
- (3) 暮らし(買い物・交通)
- (4) 集落・地域コミュニティ活動
- (5) 持続可能な地域づくりに向けて

2 地域ビジョン策定に向けた取り組み

- (1) 丹後町中学生以上全員アンケート調査
- (2) まちづくりセミナー「豊栄のみかた」
- (3) 豊栄の魅力を感じるイベント
- (4) 佛教大学グローバル人材PBLと連携した取り組み
- (5) 団体ヒアリング

3 豊栄の地域ビジョン

- (1) 目指す姿
- (2) コンセプト
- (3) 3つのテーマと6つのアクションプラン
 - ①【こども】遊びを通じた子どもの学び
 - ②【こども】大人と子どもとの交流・地域のきずな強化
 - ③【ふれあい】暮らしを守る、安全・健康なまちづくり
 - ④【ふれあい】おとなの交流(居場所づくり)
 - ⑤【にぎわい】区民や移住者の仕事を創る
 - ⑥【にぎわい】情報発信・PR(イベント・観光)

1 地域概要

(1) 地勢・歴史

豊栄地域は、京丹後市丹後町南部に位置し、北は間人地域、西は網野町、東及び南は弥栄町に接しており、地域内には国道482号が通り、また二級河川「竹野川」が貫流するほか、丹後半島で唯一関西百名山に選ばれている依遅ヶ尾山(標高540m)が聳え立っています。

豊栄地域には、現在、大山、三宅、徳光、成願寺、是安、吉永、矢畑、岩木の8つの自治区があり、地域の中心の桜ヶ丘と呼ばれる丘には旧豊栄小学校と旧豊栄保育所があり桜の名所として有名です。

なお、現在の豊栄地域にあたる旧豊栄村は、大正14年12月1日に徳光村(明治22年4月1日の町村制の施行により三宅村、成願寺村、大山村、徳光村の区域をもって発足)と八木村(明治22年4月1日の町村制の施行により一段村、力石村、神主村、岩木村、矢畑村、是安村、吉永村、相川谷村の区域をもって発足)が合併して誕生し、昭和30年2月1日間人町、竹野村、豊栄村、上宇川村、下宇川村の合併による丹後町の発足により廃止されました。



図1 豊栄の位置図と関西百名山「依遅ヶ尾山」の山頂からの眺

豊栄地域の人口は487世帯1442人(2015国勢調査)で、2010年の国勢調査(501世帯1550人)から108人(6.97%)減少しています。人口減少や少子高齢化の進行に伴い、地域産業の後継者や自治組織の担い手が不足しているほか、空家の増加など単独の自治区では抱えきれない地域課題が顕在化しています。

また、平成30年度には地域のシンボルであった豊栄小学校が閉校となり、住民の精神的な落ち込みも感じられます。

表1 豊栄地域の人口及び高齢化率(人口に占める65歳以上の割合)

	大山	三宅	徳光	成願寺	是安	吉永	矢畑	岩木	計
人口(人)	186	119	309	330	118	127	28	225	1442
高齢化率(%)	33.9	31.1	36.9	34.2	40.7	37.8	50.0	56.9	39.2

出典:平成27年度国勢調査

(2) 産業

豊栄地域の基幹産業は農業であり、法人で農業経営を行っている事業者のほか畜産農家も1軒あり個々に商品開発や販売等を行っています。豊栄を代表するシンボルといえるような特産品や加工品は多くありません。また、販売所が少なく朝市などが行われていないため、地域で生産された農作物等を買求めるに困難な状況にあります。

水田については、法人や大規模な専業農家を中心となり、圃場整備や一定の集約化が進んでいますが、耕作者の高齢化とともに後継者や担い手の確保が困難な状況にあります。さらに、鹿やイノシシ、サルなど鳥獣による被害が深刻になり、農家の耕作意欲の減退につながっています。農地保全や獣害対策として、中山間直接支払制度や多面的機能支払交付金等を活用していますが、人口減少が進む中、継続して事業に取り組むことへの不安が広がっています。



図2 依遅ヶ尾山(吉永区より)

表2 豊栄地域の農家戸数(人口に占める65歳以上の割合)

	専業農家(戸)	兼業農家(戸)	計(戸)
2005年	22	65	87
2015年	19	29	48

※出典:農林業センサス

(3) 暮らし(買い物・交通)

地域内に日用品を購入できる商店等がなく、買い物は車で5~10分かかるスーパーや週1回の移動販売、京都生協を活用されています。交通は路線バス(200円バス)や市営デマンドバスの他、ウーバーアプリを活用したささえ合い交通を利用できるエリアでもありますが、利用者は多くないのが現状です。

(4) 集落・地域コミュニティ活動

豊栄地域には8つの自治区がありますが、各自治体では事務所や事務員を設けず、各区長が自宅ですべての業務を行っています。また、区長の年齢が若く本業を持っている方が多いことが現状です。また、区長任期が1年か2年であることが多く、長期的な視点を持ちながら地域振興に関わりにくい状況です。豊栄地域として行う行事は豊栄地区公民館が担っており、グランドゴルフ大会や豊栄地区運動会、豊栄地区文化祭、豊栄ウォーキング、寄せ植え教室などが行われています。



図3 豊栄地区文化祭の様子

平成30年度の豊栄小学校の閉校をきっかけに、多様な地域課題の解決に向け、単区ではなく小学校区に当たる旧村単位で地域づくりに取り組む機運が高まった結果、平成30年に豊栄まちづくり準備会を設立し豊栄連合区と連携しながら議論を始めました。

令和元年6月、地域ビジョンの策定や廃校の活用検討など具体的なアクションへと展開していくことを目的に準備会を発展的に解散し、豊栄まちづくり委員会が設立されました。

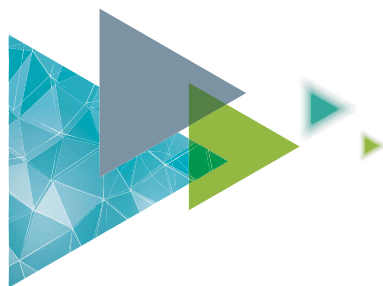
また、令和元年度には、佛教大学グローバル人材PBLとの連携事業がスタートし若者や識者など地域外の力を得られる環境が整い、彼らの協力を得ながら、地域づくりセミナー「豊栄のみかた」を3回実施し、地域ビジョン（基本計画・実施計画）の素案を作成しました。



図4 豊栄まちづくり委員会の設立

(5) 持続可能な地域づくりに向けて

豊栄ではますます過疎化が進んでいる状況であり、住民が将来にわたってこの地域に住み続けることができる仕組みづくりが喫緊の課題です。そのためには、多様な住民が参画し長期的な視点をもった地域のビジョンと、そのビジョンに基づいて地域活動のコーディネートを行う地域運営組織が必要であり、その地域運営組織が地域の農業者など事業者と連携・協働できる仕組みを検討し、地域活動と経済活動が相互補完できるような農村コミュニティの構築を目指す必要があります。



2 地域ビジョン策定に向けた取り組み

(1) 丹後町中学生以上全員アンケート調査

平成29年10月～11月にかけて丹後町区長連絡協議会が丹後町内の中学生以上の全住民を対象に「丹後町中学生以上全員アンケート調査」を実施しました。本ビジョンの策定にあたり、豊栄地域の住民の回答分について集計を行い、特出すべき項目を抽出し、分析を行いました。アンケートの実施概要は以下のとおりです。

表3 豊栄地域のアンケート実施概要

配布数	回収数	回収率
1,164	794	68.2%

①地域活動の不足度

地域活動の重要度から満足度を差し引き不足度として集計を行ったところ、優先して取り組む活動について、農地荒廃防止や移住定住、移動支援、観光交流活動が上位に現れ、関心の高さがわかりました。

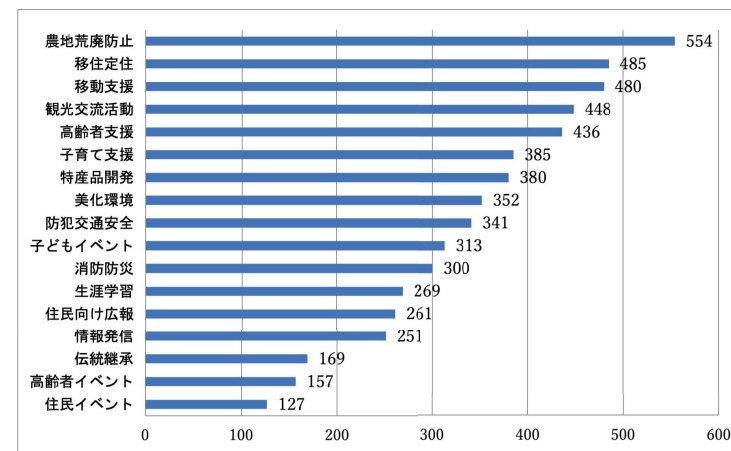


図5 地域活動の不足度(重要度－満足度)

②最も優先して取り組む活動

最も優先して取り組む活動について問うたところ、農地荒廃防止、移住定住、観光交流活動、移動支援などへの関心が高いことがわかりました。年代別にみると、10代～20代では子育て支援や観光交流活動、また30代～40代では移動支援や移住定住が高い順位となりました。50代以上では、移動支援や農地荒廃防止が高い順位となったほか、70代以上では移住定住や農地荒廃防止が高い順位となりました。また、全体を通して空白が多いことも特徴的でした。

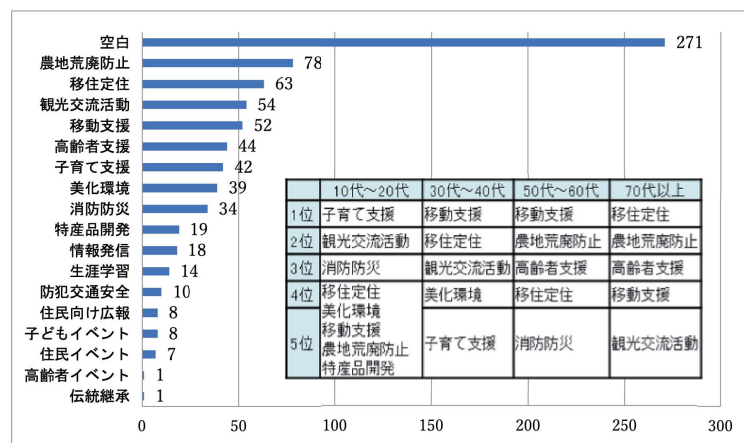


図6 最も優先して取り組む活動

③地域活動の重要度・満足度の偏差値分布

分布図の縦軸中央(満足度50)の右側は一定満足されている項目、左側は満足度が低い項目です。満足度が低い農地荒廃防止、移住定住、観光交流活動、移動支援は、優先して取り組む活動としても上位に挙がっていることがわかりました。

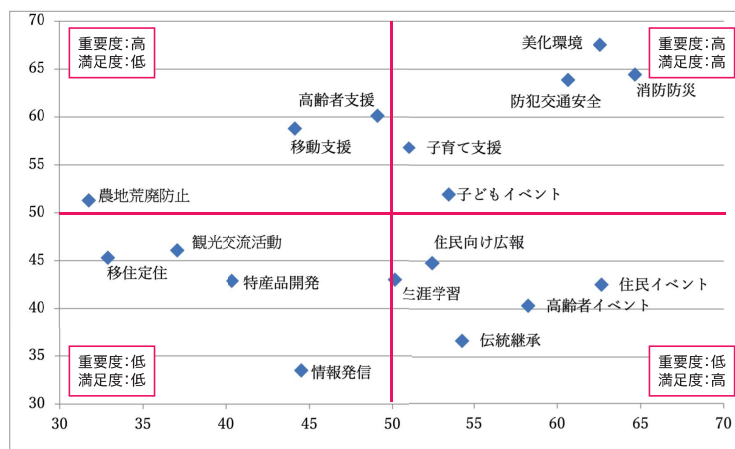


図7 地域活動の重要度・満足度の偏差値分布

④最も優先して取り組む活動に関する自由記述

最も優先して取り組む活動に関する自由記述について、分類して分析を行いました。分類に当たっては、地域ビジョンのテーマを基に6つのカテゴリーに分類を行いました。

(2) まちづくりセミナー「豊栄のみかた」

先進地の事例を学んだり、年代や立場の異なる住民同士で地域の未来について話し合ったりすることを通して豊栄の地域づくりの機運を高め、ビジョンづくりにつなげることを目的に、令和元年度からまちづくりセミナー「豊栄のみかた」を開催しました。主催は豊栄まちづくり委員会、豊栄連合区、豊栄地区公民館の共催として企画し、チラシの全戸配布、防災行政無線での周知放送、関係団体への案内状の送付など広報を行いました。令和2年度については、感染症対策を講じた上で、SNSでのライブ配信やオンラインの併用など、withコロナ時代に即した方法で実施しました。

令和元年度から令和2年度にかけて計5回開催し、延べ126人の参加がありました。特に、第2回のワークショップについては、小学生や中学生にも呼びかけ参加していただき、豊栄の将来を担う子供達の考えや声を拾い上げました。



図8 豊栄のみかた

表4 まちづくりセミナー「豊栄のみかた」の開催状況

回数	日時・会場	内容	参加
第1回	令和元年12月22日(日) 午後1時から午後3時まで 旧豊栄小学校	宇川地区の元気づくりとして宇川加工所や宇川地域の取り組みの話、里の公共員さんの活動の様子など	25人
第2回	令和2年1月13日(月) 午後1時から午後3時まで 旧豊栄小学校	佛教大学の大東先生や大学生の協力のもと、「子どもや孫の世代にどんな豊栄地域であれば良いか」をテーマに話し合い※ワークショップ	43人
第3回	令和2年2月16日(日) 午後1時から午後3時まで 旧豊栄小学校	佛教大学グローバル人材PBLの受講生から豊栄の活性化策提案、地域ビジョンの具体化を考えるワークショップ	28人
第4回	令和2年12月13日(日) 午後2時から午後4時まで 旧豊栄小学校	「みんなが主役」豊栄の地域づくりと題し、佛教大学社会学部の大東貢生准教授の講演	15人
第5回	令和3年2月13日(土) 午後2時から午後4時まで 旧豊栄小学校	地域運営に係る地域経済の活性化について(佛教大学の提案及び意見交換)※オンライン	15人
合計			126人



図9 第1回豊栄のみかた



図10 第2回豊栄のみかた



図11 第3回豊栄のみかた



図12 第4回豊栄のみかた

(3) 豊栄の魅力を感じるイベント

令和元年度には、桜ヶ丘の草刈り大作戦や豊栄夏花火(桜栄祭は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて中止とし、ライトアップのみ実施しました。)などを企画し、取り組みの中に地域の若者の参画を促進しました。

豊栄夏花火では、花火の打ち上げに必要な費用は「トヨサカファンディング」として豊栄ゆかりのある商品を持ち寄り、募金額に応じて返礼品を準備して資金を募る方法を企画し約2週間で必要額の資金を集めることができました。

参加者としてイベントに参加していただくだけでなく、企画段階から参画し地域のために共にイベントを創り上げていく中で、地域への想いを聞き出し、活動の輪を広げていきました。

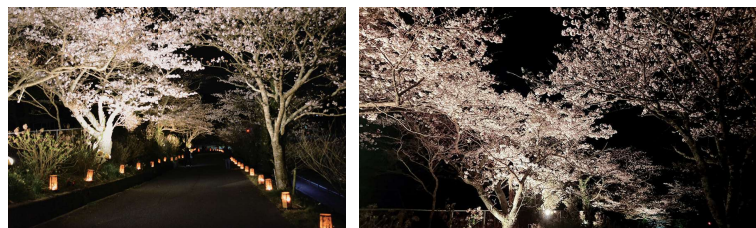


図13 桜栄祭のライトアップイベント



図14 豊栄夏花火

表5 豊栄の魅力を感じるイベント実施状況

イベント名	開催日時	内容
桜栄祭	令和2年4月5日	※新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み中止
桜ヶ丘の草刈りイベント	令和2年7月5日	桜ヶ丘の草刈り、有志約25名参加
豊栄夏花火	令和2年8月23日	花火大会、トヨサカファンディングで資金調達
桜栄祭	令和3年3月27日～4月1日	桜のライトアップを実施
豊栄秋花火	令和3年11月13日	新型コロナウイルス感染症の影響で今年は秋に延期

(4) 佛教大学グローバル人材PBLと連携した取り組み

令和元年度から佛教大学グローバル人材PBLと連携し、地域資源を掘り起こすフィールドワークを行った他、丹後ちりめん着物ファッションショーやアトリウム手作り体験教室、丹後ちりめんの端切れや地域で生産された農作物を活用した商品開発などを行いました。都市部に住む若者の視点で豊栄の地域資源を掘り起こし、磨き上げ、発信する中で、普段暮らしていると気づきにくかったり、見逃していたりする魅力を再発見することができました。



図15 丹後ちりめん着物ファッションショー



図16 丹後ちりめんの端切れを使った商品開発



図17 アトリウム手作り体験教室



図18 農作物を使った商品開発(柿のドライチップス)と柿商品の試食会

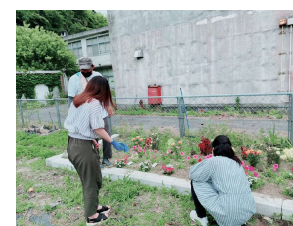


図19 フィールドワークの様子

(5) 団体ヒアリング

新型コロナウイルス感染症の影響で関係団体によるワークショップ等話し合いができない中、豊栄で地域づくりに取り組む団体等に対して個別にヒアリングを行いました。以下、主な意見です。

消防団

- ・区との連携が不十分
- ・地区によっては新規団員の確保が難しい
- ・豊栄ではないが消防団員のOBで支援消防団を結成している地域もある

子供会

- ・子供が少なくお別れ会など行事ができずじまいになることがある

民生委員

- ・民生委員は豊栄で5人、女性は1人のみ。内訳は、成願寺、徳光、吉永矢畑、是安岩木、三宅大山
- ・地区を跨いだ活動が難しい、区の壁があり区長さんの協力が必須。民生委員の活動のしやすさは区長との関係性が重要、特に地区をまたぐと区長さんと連携できないと活動が難しい

老人クラブ

- ・現在5地区で豊栄老人会を組織している、会員数は豊栄全体で101人、女性が半分以上、吉永三宅は老人会に未加盟、矢畑は少ないので存在しない
- ・豊栄老人会として地域づくりの取り組みに参加できると思う、企画の段階から組織として関われば動員もできる
- ・各地区で企画立案する力が弱まっている、行事はしなくてはいけないが段取りが大変だ、全体で企画できれば参加だけしたい人は多いと思う
- ・協議会的な位置付けの中に老人クラブも入れれば、老人クラブがない地区の方にでも呼びかけがしやすい

農業委員会

- ・豊栄地域については、徳光は3人、成願寺は2人、大山は野木源、岩木は岩木ファームなど比較的若手の担い手がいる
- ・力石など住民がいない地域の農地は荒れてきている
- ・徳光で圃場整備の話が進んでいる、高山団地は全て埋まっている
- ・是安、吉永の農地保全が課題、圃場条件が良くない、高齢化により耕作者が少なくなってきた
- ・豊栄には特産品がない、何かあればいいと思う
- ・豊栄で朝市をするなら地域の方への広報をしっかりとする必要がある
- ・豊栄の遊休農地マップを作成している

読み聞かせボランティアの会

- ・メンバー8人、今年度はコロナ禍で活動できていない
- ・月1で読み聞かせを行なっている。当初は三宅でしていたが人が来なかったのは是安に移動した、それでもなかなか集まらず成願寺へ移動したが子供がこない
- ・工作を取り入れるなど、工夫している
- ・読み聞かせだけでは人を集められないので、他企画との連携を感じている

福祉委員

- ・岩木、吉永、矢畑は福祉委員がいない、理由は社協から事業を受けても実施できないからだと思う
- ・福祉委員はイベントを行うためにいるのではなく非常時など住民福祉を支えるために必要だ、補助金云々は別話ではないかと思う

3 豊栄の地域ビジョン

地域ビジョンの策定にあたり、まず平成29年度に実施された丹後町中学生以上全員アンケート調査の結果を分析しました。その上で、具体的なビジョンを考えるにあたっては現状の課題を解決することに加え、将来こういう地域でありたいという夢や希望に向かって地域の魅力を創り上げていくこと、そのためには豊栄の将来を担う子供達や若者と共に考えていくことが大切だと考えました。

そこで、将来、豊栄を担う子供たちや若者の意見や考えを反映するために、まちづくりセミナー「豊栄のみかた」では小学生や中学生にも参加を呼びかけたり、豊栄夏花火や桜ヶ丘草刈り作戦など各イベントにも彼らに参画していただくなど、子供たちや若者と共に活動しながら地域の将来について考えを深めました。

以上の経過を踏まえ、また新型コロナウイルス感染症に対して感染対策を講じアフターコロナを見越しながら、豊栄が目指す姿やそこに向けて活動する上で大切にすべきコンセプトについて検討しました。



(1) 目指す姿

豊かな自然・伝統の中で、
生き生きと暮らしている豊栄の人たちがいて、
夢がかなえられるまち、かなえてくれる人がいるまち

地域の将来を担う子供たちが豊栄の魅力を感じ大人になったとき豊栄に住みたいと思うような地域づくりを行っていくことが大切です。そのためには、大人たちが豊栄の自然や伝統を大切に、日々の暮らしについて前向きで活発であること、想いを実現するために地域社会や仲間がサポートしてくれる地域であることが大切です。

(2) コンセプト

共同・共感・繋いでいく輪 / シンボル[桜]

一人の力では何もできません。想いを共有し、共に汗をかき、共感の輪を広げていくことが大切です。年齢や性別は関係なく1人1人が主役です。豊栄のシンボル「桜」を胸に、それぞれの想いに耳を傾け、何十にも重なる共感の輪を作っていきます。

(3) 3つのテーマと6つのアクションプラン

目指す姿を実現するために掲げたコンセプトに沿って、「こども」、「ふれあい」、「にぎわい」の3つのテーマを設定しました。これは、豊栄のみかたで行ったワークショップで出された意見を集約分析し、導いたものです。

さらに、具体的に機動力をもった取り組みを展開していくために、テーマごとに2つの柱を立て、それぞれ柱に沿った具体的なアクションプランを策定しました。

表6 豊栄地域ビジョンの3つのテーマと6つの柱

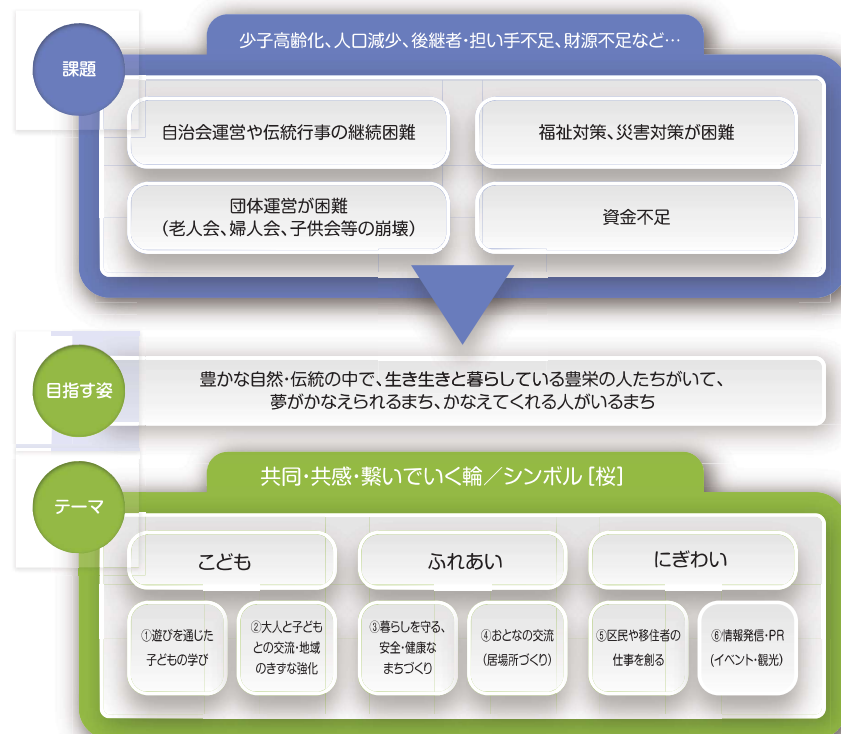
テーマ	テーマに沿った柱
こども	①遊びを通じた子どもの学び
	②大人と子どもとの交流・地域のきずな強化
ふれあい	③暮らしを守る、安全・健康なまちづくり
	④おとなの交流（居場所づくり）
にぎわい	⑤区民や移住者の仕事を創る
	⑥情報発信・PR（イベント・観光）

目指す姿に向け持続的に取り組んでいくためには、取り組みの中に経済活動を位置づけることが重要です。収益事業に着手し小さな雇用や利益を生み出し持続的に運営するとともに、次の事業へ投資していく必要があります。

具体案

- ・商品開発、加工品販売
- ・地域内資源を活用したツアーの企画開催
- ・地域内で生産された農産物や加工品を販売するマルシェの開催

豊栄地域ビジョンの概念図



① [こども] 遊びを通じた子どもの学び

豊栄の自然環境を生かした遊びを見える化し、子どもたちが地域の達人と一緒に遊べる環境づくりやプログラムづくりを行います。遊びを通して子供たちに豊栄地域の良さを伝えていきます。プログラムが整った暁には、広く広報し収益事業として取り組んでいきます。

アクションプラン

○豊栄匠塾

農業体験、山遊び、虫取り、茸山菜採り、星の見方、キャンプ、プログラミングなど、地域の達人（得意な方）が講師となり演習を実施

○（仮称）桜ヶ丘公園構想

豊栄グラウンドなど既存の施設をリニューアルしわかりやすい名称をつけて発信。休憩ができる東屋、BMXなど自転車コースの製作など



アンケートの主な意見

- ☒ 小さい子どもたち（誰でも）に簡単な作業を体験させる
- ☒ 特に若者や子どもが楽しめるような体験を企画する
- ☒ 子供たちが集まれる場所を増やしてほしい、レクリエーション施設がほしい
- ☒ 子育てしている人が働きやすい環境
- ☒ 天気の良い日に子供を連れていくところがない
- ☒ 丹後町全般でなくても小地区での近所でのサロン等を計画

② [こども] 大人と子どもとの交流・地域のきずな強化

子どもたちが地域に誇りを持ち、将来豊栄に住みたいと思えるためには、大人たちが豊栄地域の良さを再確認し、暮らしを肯定的に捉え、子供たちに伝えることが大切です。旧豊栄保育所を拠点に、多世代の方々が集い、多様な交流を育むとともに、地域全体で子育てを支える環境づくりに取り組んでいきます。

アクションプラン

○(仮称) 豊栄コミュニティセンターの設置

旧豊栄保育所を市から借り受け、親子連れや高齢者の方など地域の方がいつでも気軽に集え、時間を過ごしたり、交流したりできる場所を整備。施設の名称を公募するなど、地域の方に親しみを持っていただける施設を目指す

○豊栄学び塾

教員OB等に協力を仰ぎながら小中学生等の学習、読み聞かせや英会話などについてボランティアによる学習塾を実施

○大人が地域の悪口を言わない運動

標語やポスターを作成する等大人の言動を意識づけるような取組を実施



アンケートの主な意見

- ☒ 自然や食材、人は素晴らしいのでそれを活かしてほしい
- ☒ 豊栄小もなくなる中、豊栄というくくりが何かしら残ることがあればいい。丹後町民としての意識が薄くなる中子供らが持ち続けられるような事
- ☒ 住みやすいから、便利だからだけの理由で町外に出ていくのはどうかと思う
- ☒ 若者が他町へ住居を構え移り住んでいくことが問題につながっている
- ☒ 他人に対して冷たい。生きていくのに精いっぱい先のこと考えられない
- ☒ 田舎ならではの良さは分かるが、一方で煩わしさもある

③ [ふれあい] 暮らしを守る、安全・健康なまちづくり

農地の保全、鳥獣被害、災害、医療、道路整備、移動、空家など安全で健康な暮らしを維持するためには、隣組や集落の枠を超え、同じ問題意識を持つ方が集い、共に考え、助け合う(自助・共助)こと、その仕組みを作っていくことが大切です。市や府など行政機関等への働きかけ(公助)を行うにも、地域の声をまとめる必要があります。

アクションプラン

○テーマ別「豊栄のみかた」の開催

防犯や農地管理などテーマごとに話し合える場「豊栄のみかた」を開催。同じ問題意識を持った方が集い繋がることのできる場づくりを実施

○多面的機能支払交付金事業など農業事業の広域化

事務局の担い手不足により事業実施が困難になる等の課題を解決するため事業の広域化や事務局の一本化について検討

○ICTの導入検討

移動や福祉(見守り)などにICT活用やデジタル化を検討

○空家の利活用

地域の空家情報を集約し利活用による移住促進を実施



アンケートの主な意見

- ☒ 毎回数につかる地域の改善を。有害鳥獣の対策を
- ☒ 自治区だけの事業活動、要望では地域は良くならない。豊栄、間人、竹野、宇川全体で事業が必要
- ☒ お年寄りの方が安心して暮らせる環境、安くて車移動ができる。お金がない方は利用しなくてもできない
- ☒ せめて田畑の荒廃といった町の美観を大切にしてほしい
- ☒ 子供を時間外に診察してくれる病院がない

④ [ふれあい] おとなの交流(居場所づくり)

少子高齢化や人口減少により、1人あたりにおける地域活動の負担が増加しています。地域活動の棚卸しや組織体制の確認を行い、行事や役職の削減を検討したり、老若男女問わず参画できる仕組みを検討する必要があります。合わせて、地域活動の意義を再認識し、地域全体で共有することが大切です。

アクションプラン

○地域活動の広域化、ICTの導入

行事の棚卸しを行い、各地区単位で運営が難しくなった行事を広域化し、旧豊栄保育所等で行うなど、労力を最小限に効果を最大化できるよう検討を行います。ICTを活用し地域活動や暮らしの効率化について意識を高める

○住民サロンの開催

旧豊栄保育所で定期的にサロン活動を開催(例:民生委員、福祉委員、健康づくり推進員と連携)。小物づくり、アトリウム教室、ワンコインで行う食堂や居酒屋など、広く住民が集える場づくりを実施

○歩いて行ける小さなコミュニティづくり

地区の公民館に寄付による簡易図書館を開設するなど、高齢者と孫などの交流が促進できるような、歩いて行けるコミュニティづくり



アンケートの主な意見

- ☑ 消防団の負担を軽くしてほしい。帰りが遅く家庭内で火事が起こる。せめて年齢制限でゴールが見えて欲しい。不安で実家に帰りたくなる
- ☑ 田舎はお金がかかる割に収入が少なく、地域活動が多く、休日に家族全員がそろう休みが少なく収入も減る。
- ☑ 各学区に気楽に集まれるコミュニティがあれば(簡単な店、直売所でもよい)
- ☑ 自分のことで精いっぱい周りの人に気が回らないが、いろいろと気軽に相談できる人もいないし、場所もない

⑤ [にぎわい] 区民や移住者の仕事を創る

テレワークの普及などにより、都市部の企業に所属し好きな仕事をしながら、自然豊かななど好きな地域に暮らす生活スタイルが広がっています。豊栄地域でしかできない暮らしの魅力を高め、地域経済の活性化や地域振興を目的にUターン者等が行う起業を支援することが必要です。

アクションプラン

○豊栄マルシェ

豊栄地域で生産された産物など豊栄のいいものを集めた手作りマーケットを開催し、買う、食べるといった経済活動を活性化させるとともに、豊栄の地域資源の再発見、暮らしや人の魅力を発信

○佛教大学との連携事業(特産品・商品開発)

佛教大学グローバル人材PBLと連携し、持続可能な地域づくりに必要な地域経済の在り方について研究を深め実践

○地域内の事業者との連携(ワークシェア)

地域内の限られた人材の有効活用や移住希望者の仕事づくりなどを目的に、事業者から繁忙期の情報を収集し、働きたい人とのマッチングを実施



大学生が作成したホームページ



アンケートの主な意見

- ☑ いろいろな人(よそから来た人)も受け入れる。アルバイトや会社員の募集をインターネットやチラシ、ポスターで呼びかける
- ☑ 若者の仕事ができるようにしないと丹後から若者がいなくなる
- ☑ 丹後町には食事をする所が少ない、美味しいものは遠くからでも足を運ぶのでレストラン等が増えれば活気が出るのでは
- ☑ 丹後地域全体に若者に魅力ある産業がなく給与水準が低い。Uターン希望者はたくさんいる。さびれないように協力できることは協力する
- ☑ スーパーを誘致してほしい。田んぼの耕作者がいないので困る

⑥ [にぎわい] 情報発信・PR(イベント・観光)

豊栄地域の魅力は、自然資源を活かした農業体験や登山などです。豊栄地域を楽しめるコンテンツを整えた上で、宿泊施設や道の駅、海水浴場などがあり年間を通して多くの観光客が訪れている間人や琴引浜など周辺地域と連携し、情報発信を行うことが大切です。

アクションプラン

○滞在型観光の促進

野菜や果樹などの農業体験のプログラム化やEバイクによる周遊など、観光客が豊栄地域を楽しめる態勢を整備。情報をWEBやパンフレット等に整理し、周辺地域の宿泊施設との連携を促進

○依達ヶ尾山登山

満足度が高まるような環境整備、お金を落とす仕組みづくりを検討

○豊栄の魅力を発信するイベント

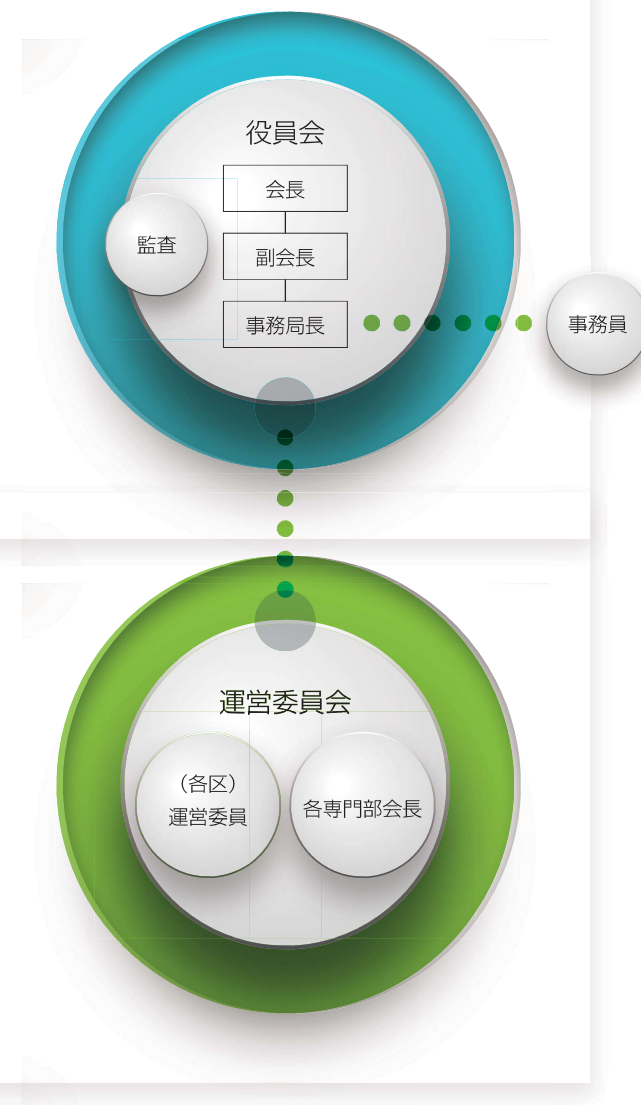
豊栄の魅力を地域内外に発信するとともに、同じ価値観を持った仲間と出会い仲間づくりのきっかけになるようなイベントを企画・開催(桜栄まつり、豊栄夏花火など)



アンケートの主な意見

- ☒ 観光客に紹介し丹後のことを知ってもらう
- ☒ 丹後町といわれて海しか思いつかない。地域外の人が集まる観光スポットがあればいい
- ☒ もっと「丹後」をアピールする。特産品を増やす
- ☒ 学校統合により空校舎の有効活用ができないか
- ☒ 自然の持つ価値をもっとアピールしてよい。他と比較しても素材は悪くないが、広報がほぼ全くなされていない
- ☒ 観光スポットはたくさんあるのに残念。娯楽施設ができればいい

ビジョンの実現に向けた組織体制(イメージ)





地域ビジョン10年構想

～共同・共感・つないでいく輪～

R4	短期	中期	長期
令和4年度	1～3年	3～5年	5～10年

テーマ こども

テーマに沿った柱	アクションプラン	想定期
①遊びを通じた 子どもの学び	豊栄匠塾	R4
	桜ヶ丘公園構想	長期
②大人と子ども との交流・地域の きずな強化	(仮称)豊栄コミュニティセンターの設置	R4
	豊栄学び塾	R4
	大人が地域の悪口を言わない運動	短期

テーマ ふれあい

テーマに沿った柱	アクションプラン	想定期
③暮らしを守る、 安全・健康な まちづくり	テーマ別「豊栄のみかた」の開催	R4
	多面的機能支払交付金事業など農業事業の広域化	長期
	ICTの導入検討	長期
	空き家の利活用	短期
④大人の交流 (居場所づくり)	地域活動の広域化、ICTの導入	短期
	住民サロン	R4
	歩いて行ける小さなコミュニティづくり	短期

テーマ にぎわい

テーマに沿った柱	アクションプラン	想定期
⑤区民や移住者 の仕事を作る	豊栄マルシェ	R4
	佛教大学との連携事業(特産品・商品開発)	R4
	地域内の事業者との連携(ワークシェア)	中期
⑥情報発信・PR (イベント・観光)	滞在型観光の促進	中期
	依遅ヶ尾山登山	中期
	豊栄の魅力を発信するイベント	R4

計画期間は、令和4年度～令和13年度までの10年間とし、概ね2年から3年ごとにアクションプランの見直しを行います。
また、毎年度、事業計画と事業予算を設定し、事業を実施します。